

相撲部屋におけるおかみさんの役割について

The Roles of “OKAMI-SAN” (Master’s Wife) in Sumo Stables

トップスポーツマネジメントコース

5021A307-5 杉野森 竜児

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 背景

筆者は安美錦竜児として約 23 年間力士を務めた後、2019 年からは年寄安治川として、さらに今後は「安治川部屋」を運営する部屋持ち親方になる予定である。相撲部屋は親方、弟子、行司、呼出しなど協会が定めた人たちが構成されているが、それ以外に「おかみさん」がいる。「おかみさん」は弟子の育成業務で重要な役割を担うが、相撲協会員ではないため、協会の規律の外の存在（大相撲継承発展を考える有識者会議提言書、令和 3 年 4 月）でありながら、横綱大関の昇進時に行なわれる伝達式では同席が求められる唯一無二の欠かせない存在である。「おかみさん」は親方の妻が務め、昭和以前より相撲部屋を裏方として支える存在と言われているが、おかみさんの役割についての詳細な情報は限られている。おかみさんの役割についての言及されているものに、先代中村部屋のおかみさんが相撲部屋経営、力士養成の観点でまとめた修士論文（中澤, 2003）、そしてその修士論文がその後書籍や雑誌の特集で出版されたものがある。中澤の研究から 20 年弱が経つ 2021 年において、以前と変わらないところ、変化していることを明らかにし、2020 年代のおかみさんの役割を明らかにすることは、相撲の伝統の継続、維持、普及、経営に役立つと考えられ、本研究を行なった。

2. 研究目的

本研究は、相撲部屋における「おかみさん」の役割を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

1) 文献調査

昭和から平成までの相撲部屋全体の仕事についても言及されている書籍 3 冊と現役のおかみさんのインタビューが掲載されていた雑誌 2 冊を対象とした。自分自身の経験を「育成」「経営」「生活」「渉外」「その他」の 5 項目で分類し、さらに文献で書かれている内容を誰が担っているのか整理した。

2) インタビュー調査

協力の得られたおかみさん 5 人（弟子が 25 人以上の部屋（A 部屋）、弟子が 20 人以上（B 部屋）、弟子が 15 人以上（C 部屋）、弟子が 10 人以下（D 部屋）、引退後（E 部屋））に対して、①年間、本場所ごとの一日のスケジュール②部屋設立時③家庭との両立④仕事⑤大切にしていること⑥他部屋との交流について質問した。そして、相撲へのおかみさんと同じような役割があると想定される大学駅伝チームの寮母（青山学院大学陸上競技部寮母の原美穂さん）に対して、①選手の寮生活、②選手へのサポート、③監督との仕事分担について質問した。

4. 結果

1) 相撲部屋でのおかみさんの役割

文献調査の結果、相撲部屋の仕事は大きく分けて 5 個あり、「育成」「経営」「生活」「渉外」「その他」の 5 区分いづれにおいてもおかみさんが関わる仕事があった（表 1）。おかみさんは特に「経営」「生活」「渉外」の面で深く関わりを持ち（表内、太字）、さらに力士のサポート役・経営者・事務など様々な仕事を行っていた。稽古においては親方と力士の仕事とする一方で、治療では病院への付き添いや送迎、ちゃんこ作りで一品作るなど関わっており、強くなるために稽古をする力士をサポートする一方で、相撲部屋建設の契約など稽古する環境作りを行っていた。経営ではおかみさんは相撲部屋の金銭面の管理、激励会などのパーティー等、後援者と関わりのある事柄や行事の準備に多く関わっていた。生活ではおかみさんは様々な力士の相談や未成年のサポート、親方との仲介役としての役割、更にはゴミ出しや部屋周辺の住民からの苦情対応を行う一方で、地域の祭りやイベントに参加し近隣住民との関係を築いていた。渉外では、名簿や差し入れの管理を親方とおかみさんで管理し、後援者へのお礼状や連絡を行い、更にはちゃんこの接客に努め後援者が増えるよう対応を行っていた。その他では他部屋のおかみさんとの交流があった。

表 1 相撲部屋の仕事とおかみさんの関与

分野	1. 強化	2. スカウト	3. 治療	4. ちゃんこ作り	5. 環境作り
育成	a. 稽古 b. トレーニング		a. 怪我や病気の治療 b. 普段のケア	a. 調理 b. 片付け	a. 相撲部屋建設の契約など b. 土俵作り
経営	1. 管理 a. 部屋運営費 b. 後援会費	2. パーティー等準備 a. 激励会 b. 部屋イベント c. 冠婚葬祭	3. スポンサー集め a. 後援会 b. スポンサー	4. ホームページ SNS 管理	
生活	1. サポート a. 未成年/外国人力士のサポート b. 新弟子準備 c. 学習支援 d. 悩み相談	2. 仕事分担 a. ちゃんこ番 b. 掃除当番	3. 近隣対応 a. 地域との関わり b. 苦情対応	4. スケジュール管理 a. 部屋スケジュール b. 力士スケジュール	
渉外	1. 管理 a. 後援会名簿 b. 差し入れ	2. お礼 a. お礼状 b. お礼連絡	3. 対応（東京・地方） a. 稽古見学 b. ちゃんこ接客 c. 来訪者 d. メディア	4. 発注/発送 a. 番付 b. カレンダー c. 反物 d. お土産	
その他	1. 他のおかみさんとの交流				

※おかみさんが関与している仕事を太文字で示した

表2 おかみさんの仕事における部屋ごとの違い

		A部屋 (弟子25人以上)	B部屋 (弟子20人以上25人未満)	C部屋 (弟子15人以上20人未満)	D部屋 (弟子10人以下)	E部屋 (弟子10人以下)
渉外	後援会への対応	○	○	○	○	×
	ちゃんこ接客	○	○	×	×	×
	地方場所同行	○	×	×	×	×
育成	治療や怪我の世話	○	○	×	×	×
	事務作業	○	○	○	○	○
経営	弟子の心理的サポート	○	○	○	○	○
	弟子の スケジュール管理	○	○	×	×	×
	親との連絡	×	×	○	○	-
生活	ちゃんこ作り	×	×	×	○	○
	家族より部屋の仕事優先	○	○	○	○	×
その他	他のおかみさんとの交流	×	×	×	×	×

2) インタビュー調査

①相撲部屋のおかみさん

インタビューしたおかみさんは、5人とも本場所中は弟子の相撲を確認し、帰ってきたときに一言声を掛けていた。また、全員経理などの事務作業を実施する一方で、他の部屋のおかみさんとの交流が無いと述べていた。

次に、部屋の設立、継承の違いにより、おかみさんになったときの仕事の違いがあった。部屋を継承する場合には、兄弟子が新弟子に仕事を教えるため、おかみさんの仕事は少ないが、後援会も先代から引き継ぐことが多いため、最初から大規模な後援会のマネジメントという役割があった。一方で、新たに部屋を興す場合には、兄弟子がほとんどいないこともあり、身の回りのことだけでなくちゃんこ作りもおかみさんが手伝う等、生活全般の支援をしていた。そして、5人中4人は後援会対応をしていた。稽古見学や来客の対応などであった。実施していなかったE部屋では、この仕事は親方や裏方が担い、おかみさんはサポートする立場であった。

また、現役のおかみさんは全員家族よりも部屋の仕事を優先し、子どもの協力も得ながら経営に携わっていた。弟子が20人を超える部屋はちゃんこの接客に力を入れていた。関取も多く、予定が増えるため弟子のスケジュール管理も行っていた。ちゃんこは力士に任せていると言っても一品作るなど携わっていないと答えていても関わりは少なからずあった。

②大学駅伝チーム寮母

おかみさんと大学駅伝チームの寮母をしている原さんは「力士や学生と積極的にコミュニケーションを取っていたこと」「取り組みや試合を必ず見ていること」が共通していたが、「運営方法への言及の有無」について異なっていた。原さんは学生主体の寮運営を目指していることを述べていたが、おかみさんは詳しく述べていなかった。

5. 考察

1) おかみさんの役割

部屋の規模が大きく、兄弟子がいる場合は、ちゃんこ作りなどの部屋内の仕事を若い力士に教える役割を担えるが、部屋の規模が小さく、兄弟子がいなく、または限られた人数の場合は、兄弟子に変わり若い力士のサポート役おかみさんにその役割が回ってくるのがわかった。また、渉外はどの部屋のおかみさんもその役割を果たしていたが、大規模な部屋では、ちゃんこ接客や地方へ同行し後援会の対応窓口となるなど、部屋外の人々と関わる役割の割合が増えていた。このように、部屋の規模や後援会の大きさにあわせて、渉外活動と力士の生活面での支援におけるおかみさんの役割は段階的に変化していくことが明らかとなった。

①相撲部屋の経営におけるおかみさんの役割

相撲部屋の規模にかかわらず、おかみさんの役割とし

て変わらないことは経営、そして、渉外を中心である後援会対応、生活面の弟子の心理的サポートである。経営では、「収入支出の管理ができること」、「後援会などの名簿管理の役割」が、渉外は、「後援会会員数を維持しさらに増やすという普及の役割」、「相撲部屋と外部の人たちを繋ぐ役割」がある。経理や普及、マーケティングには一定の専門的知識も必要になることから、これらを親方と共に学ぶ、知識を持ち、相撲部屋経営に関わることが肝要と考える。

②力士の生活におけるおかみさんの役割

弟子の心理的サポートは従来からおかみさんの重要な役割と指摘されている。相撲部屋のおかみさんの役割として生活面の弟子の心理的サポートが見られたが、新しく部屋に入門した力士たちが定着するためにも、おかみさんが新弟子の心理的サポートが必須となっている。そして、心理的サポートの方法も変化しており、現代に応じた支え方を実践すべきである。

2) おかみさんに向けた研修の提案

おかみさんの役割は部屋の規模や設立経緯によってその程度は異なるが、部屋の経営には、経営や経理に関する知識、さらにはコンプライアンスやSNSの活用法および使用上の注意点、現代の若者のメンタルサポートやコーチングのように時代に応じて獲得していかなければならない知識がある。このような知識の修得は、おかみさんの努力に頼っている。

相撲界として欠かせない、持続的な相撲部屋経営という視点で俯瞰すると、日本相撲協会として、おかみさんが経営や経理など相撲部屋経営に必要な知識を学ぶ機会を創設することの検討を試みることは必要であり、このような取り組みは日本相撲協会の発展にも寄与すると考える。

3) 本研究の限界と今後の課題

本研究ではおかみさんの役割について一定の見解を得ることが出来たが、これらの役割はまた時代の変化にともしない変わることも考えられることから、継続的に検討することが必要であると考えられる。

6. 結論

おかみさんの役割の中心は渉外と経営、そして部屋に所属する力士をサポートする役割である。この役割は部屋の規模によってその割合が変化していた。おかみさんは相撲部屋において後援会の拡大に携わり、経営においても重要な役割を担っていることから、今後の大相撲発展のために欠かせない存在である。

持続的、発展的な相撲部屋経営を目指すならば、相撲経営に必要な知識に関する研修の機会を設けることなど、協会員ではないが、重要な役割をもつおかみさんへの支援について検討を始めることが求められるであろう。